

北陸新幹線南越駅周辺整備基本計画の策定に関するパブリック・コメント資料【概要版】(案)

1. はじめに

平成15年4月に策定された『南越駅周辺整備基本構想』の基本理念を継承し、基本構想策定後の社会経済状況の変化や将来の見通しなどを踏まえ、時点修正を加えて、基本構想を具体化する『北陸新幹線南越駅周辺整備基本計画』を策定します。

2. 整備方針

基本理念

『交流促進の起点 南越駅周辺地域』 ～丹南地域の人・自然・伝統・文化とのふれあいによる新たな出会い～

4つの展開

交流の起点

～交通結節点と地域資源への誘導の場の創出～

伝統・文化とのふれあい

～伝統・文化、匠の技との出会いの場の創出～

人とのふれあい

～来訪者と地域住民の交流の場の創出～

自然とのふれあい

～豊かな自然を感じる、癒しの場の創出～

駅周辺整備コンセプト

『 伝統・文化を未来につなぐ癒しと交流の空間 』

3. アクセス道路と道の駅の整備

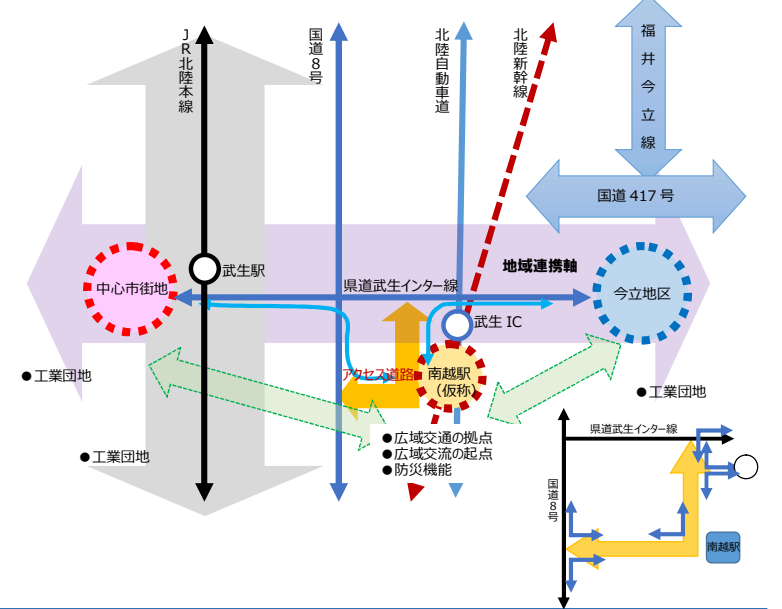
地域連携軸と丹南地域の地域資源



駅周辺が、北陸自動車道のインターチェンジや国道8号が近接する交通結節点であることを活かした「広域交通の拠点」、地域住民と来訪者が地域の魅力を知り・楽しむことで、周辺への観光を促す「交流の起点」、多くの人々が集まる場所として、災害時の「防災機能」としての役割を果たすことができるような整備を計画しています。

(1) アクセス道路

東西アクセス道路と南北アクセス道路を同時に整備して、L型の一体的なアクセス道路網を形成することで周辺幹線道路相互を連絡する利便性の高い道路ネットワーク形成が可能となり、駅周辺が丹南地域の「広域交通の拠点」「交流の起点」「防災機能」として貢献することができます。



(2) 道の駅整備の優位性

1. 自動車でのアクセスも良好な立地特性



2. 丹南地域の地理的中心に位置



駅周辺に期待される役割

1. 広域交通の拠点

➢ 高速・広域交通網が近接している立地特性を活かして、丹南地域内観光におけるトランジットの際に人々が利用する玄関口として機能し、地域資源への立ち寄りを促す拠点としての役割

2. 交流の起点

➢ 幅広い交通手段の来訪者がアクセスしやすい立地を活かし、丹南地域へ訪れた人々に、伝統産業の魅力や奥深さ、自然や食の魅力、地域住民の活力を伝え、各地へ導く交流の起点としての役割
 ➢ 施設は駅利用者のためだけではなく、自動車利用者のための施設としても機能することで、駅前の賑わいの向上とさらなる魅力化を図ることが可能

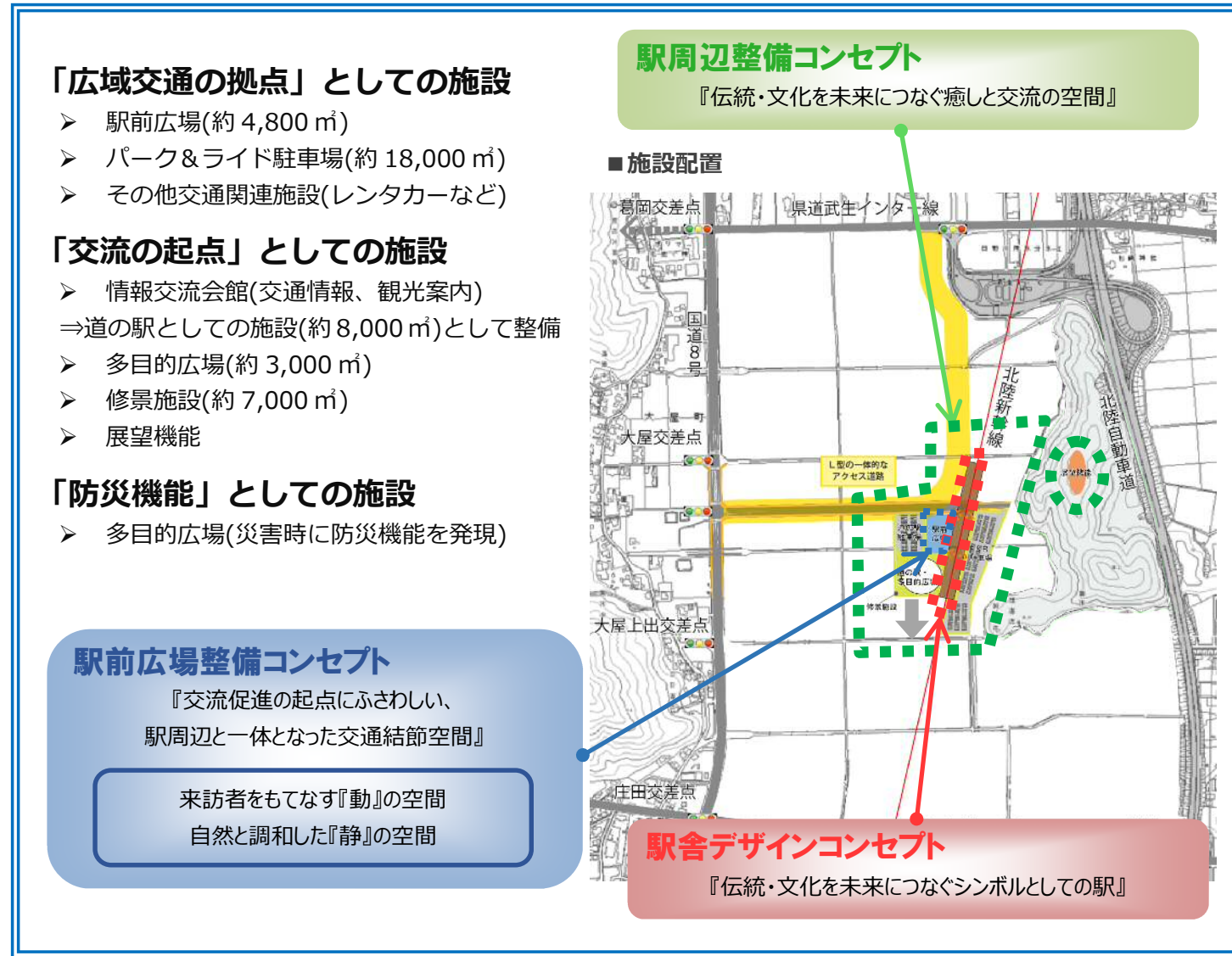
3. 防災機能

➢ 震災やその他の災害時において、「道の駅」は被災者支援や復興支援、避難者の受け入れ先として貢献
 ➢ 台風や大雨、冬季の暴風雪においても、「道の駅」は避難者の受け入れ先として貢献

駅舎の外に設置する情報交流会館を道の駅として整備する

4. 整備計画

整備方針等から導き出される施設機能として、以下の8つの機能を提案しました。そして、これらの機能を併せ持つ施設として、道の駅としての施設や修景施設等の整備を計画しています。

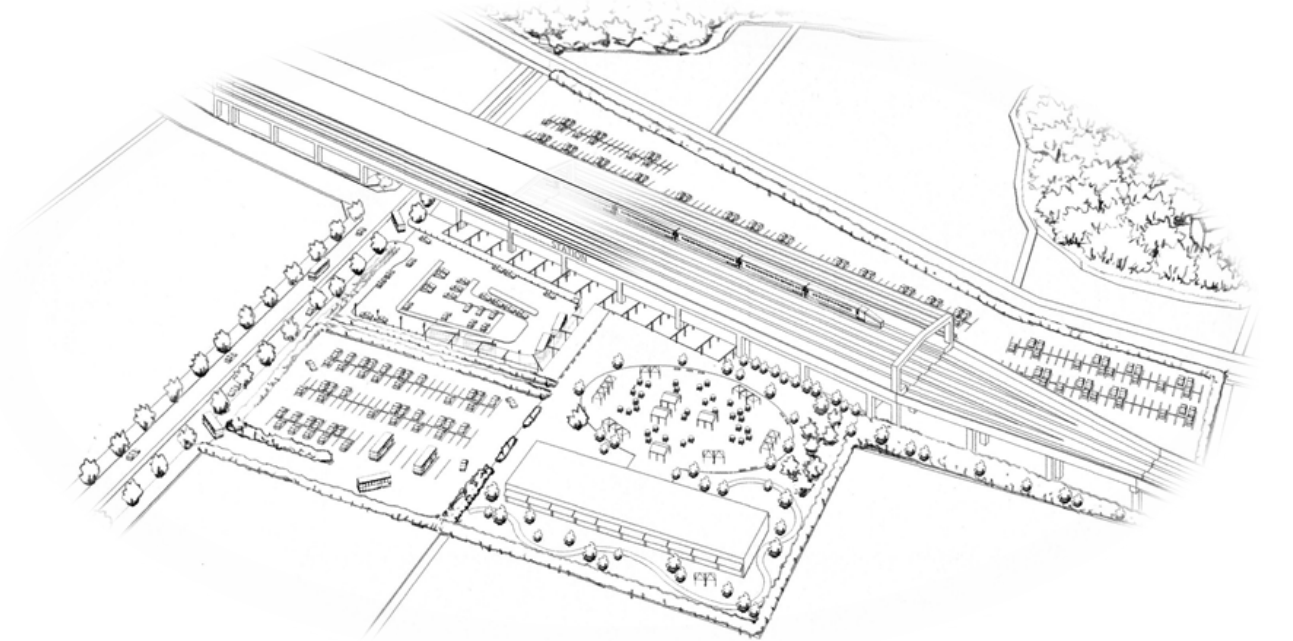


「交流の起点」としての施設内容

道の駅としての施設	① 地域の価値や魅力を向上させるゲートウェイ機能
	② 匠の技にふれあえる伝統産業交流機能
	③ 伝統産業製品を購入できる物販施設
	④ 地域の特産物や加工品を購入できる物販施設
	⑤ 地域の食材や加工品を味わえる飲食施設
	⑥ 地域のイベント等を開催できる多目的広場

- ⑦ 来訪者や地域住民がやすらぎ癒される修景施設
- ⑧ (オプション)コウノトリが舞う里や新幹線を眺められる展望空間

5. 駅周辺のデザインイメージ



6. 土地利用計画

- 開業までに備えるべき施設(アクセス道路、駅前広場、P & R 駐車場、道の駅としての施設、修景施設)を「先行的に整備する区域」、その他の区域を「社会情勢を見据えながら整備を検討する区域」として定める。
- 「先行的に整備する区域」については公共が整備し、整備にあたっては公共の整備に見合い、かつ周辺地域に影響を与えないような手法を用いる。
- 「社会情勢を見据えながら整備を検討する区域」については、民間活力の気運や熟度の高まりを見定めて、ネットワーク型コンパクトシティの概念や平成 28 年度に改定予定の都市計画マスタープランと整合させながら、進出施設に必要な用途や規模に応じた規制・誘導の手法を適用して、民間活力の誘導を行う。なお、アクセス道路の沿道については、先進団体の事例を参考に最小かつ限定的な区域において、規制・誘導の必要性や手法の検討を行う。

